

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年12月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0174100602		
法人名	有限会社 ウェルネス		
事業所名	グループホームあいこく		
所在地	〒085-0058 釧路市愛国東1丁目27番8号 (電話) 0154-37-4165		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年11月19日	評価確定日	平成21年12月18日

【情報提供票より】(平成21年10月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年10月14日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18人
職員数	18人	常勤 15人、非常勤 3人 常勤換算 12.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造り	
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	16,000～26,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	490 円
	夕食	490 円	おやつ	円
	または1日当たり			円

(4) 利用者の概要(10月23日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	2名	要介護2	7名		
要介護3	8名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 74.9歳	最低	62歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さい内科クリニック・釧路脳神経外科病院・島津歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、近隣の除雪を行う等、地域との関わりを大切にしている。今年の事業所の夏祭りには地域住民が150名参加するなど、積極的に交流を深めている。管理者と職員は、ケアを統一してサービスの質の向上に取り組んでいる。利用者は散歩や買い物のほか、温泉に宿泊したり、墓参りや教会のミサなど希望の外出ができるように、職員を配置して要望に応じている。また、職員教育に取り組んでおり、奨学金制度を作り職員の資格修得を支援し、福利厚生も充実させている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で行い、管理者がまとめている。職員自身の振り返りとなり自己評価は外部評価とともにサービスの質の向上ができる機会と捉え、結果を運営推進会議にも報告をしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1度開催している。近隣2つの町内会の代表が出席しており、避難訓練への協力へとつながっている。運営推進会議で出された要望や助言を運営に活かした取り組みを行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪も多く、できるだけ家族から話を聞くよう努めている。家族会や運営推進会議でも家族の代表者から意見を聞いたり、用紙を配布し意見等を寄せて欲しいということを伝えてあり、運営推進会議の内容も知らせている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常的に地域住民と交流があり、季節には山菜が届けられたり畑の草取り収穫時のボランティアとして住民が参加している。職員も利用者と一緒に町内会行事に出席するなど顔馴染みとなり、事業所行事には多くの地域住民が参加するなど交流を深めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員と話し合いを重ねながら独自の理念をつくりあげ、利用者が安心して地域の中で暮らし続けられるように支援をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンスの中でケア統一のために話し合い、理念を管理者と職員が共有し、実践に活かせるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民が事業所の夏祭りの模擬店等に参加し、畑作業や収穫祭を利用者とともにやっている。また、小学校から運動会や学芸会の見学の誘いもある。地域住民との交流は年々増えており、事業所への訪問も多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で行い、管理者がまとめている。運営者と職員は、自己評価及び外部評価の意義をよく理解している。外部評価の結果を運営推進会議で報告し運営に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催している。会議では、事業所の案内や報告だけではなく、参加者から要望や意見を聞き、それを職員と話し合いサービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	必要に応じて、家族等へ電話連絡や出向いて相談を行うなど、連携してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「あいこくだより」を発行し、出納簿のコピーと一緒に家族等へ郵送している。利用者の健康状態や日ごろの生活については、家族の来訪時や電話で報告したり希望の家族にはEメールで報告をしている。また、職員異動についても「あいこくだより」で家族に報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時や家族会、運営推進会議に代表者が参加し意見をもらっている。苦情相談窓口を明確にしているほか、家族に用紙と封筒を配布してどんな相談でも受け付けることを知らせている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は必要最小限に抑えるように努めている。職員が代わる場合は新しい職員と重複勤務し利用者と馴染むようにするなど、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は管理者や職員の習熟度に応じた研修が受講できるように配慮し、外部研修への参加を促している。職員は、シフトを調整しながら順次研修に参加している。内部研修も月1度行っている。また、資格修得を奨励しており、奨学金制度もあり働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修会に参加し講演会や学習会で交流を持っており、また交換研修を行うなど、サービスの質を向上させる取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始にあたり、管理者が自宅や病院等を訪問したり、本人や家族が事業所見学を行う等、雰囲気馴染めるよう個々に対応し、家族の協力を得ながら馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食器拭きや料理下準備、掃除、園芸用ハウス管理、犬の散歩、漬物づくり等職員は利用者のできることを一緒に行いながら、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は担当制で、普段のコミュニケーションを通し本人の希望に合わせて散歩や買い物等、本人本位の支援をしている。意向の表出が困難な利用者については、家族からの情報や普段の関わりの中から、希望や意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ会議等で、本人や主治医、家族の意見を聞き、個々のケア担当者と職員とで話し合い介護支援専門員を交えて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1度、見直している。退院後や利用者の状況に変化があれば本人や家族、医師らと相談し見直しを行い現状に即した計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	フリーの職員を配置し、利用者の一人ひとりの希望に応じて通院、教会ミサ、動物園、温泉宿泊、墓参り等の外出に柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、利用開始前のかかりつけ医に職員と通院している。往診と訪問看護が月2回あり、その都度適切な医療が受けられるように支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員は家族やかかりつけ医とできるだけ早い段階から話し合いを重ね全員で方針を共有し、本人や家族、医療関係者と相互の信頼関係を築き終末期に対処している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者の近くで声かけ誘導しプライバシーを損ねるような対応はしていない。記録は利用者の目の届かない場所に保管、適切に管理をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活を大切に、メリハリのあがる生活ができるように、職員がその日に出かけたい場所や、やりたいことの希望に沿える支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度、後片付けなどを職員と一緒にやっている。また、利用者が作った畑の野菜や漬物、近所からの差し入れの山菜等が季節によって食卓に上がる等、食事を楽しむことができるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴が利用者の希望に沿って、週6日入浴出来るように支援をしている。また、銭湯を希望する利用者は職員と一緒に出かけており、入浴を楽しめるように支援をしている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の力量に応じてモップかけやビニールハウスで野菜の管理、犬の散歩など張り合いが持てるように支援をしている。また、カラオケやぬり絵、銭湯、外食等楽しみや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、教会、図書館等、天気良ければできるだけ戸外に出かけられるように支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族や隣住民の来訪が頻繁にあり、利用者も自由に出入りができるように鍵をかけないケアに取り組んでおり、施錠は夜間のみとなっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	町内会の地域住民の参加を得て、年2回の防災訓練を行っている。また、防災マニュアルを作成している。さらに、スプリンクラーが年内に設置の予定である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスやカロリーを考え、利用者の嗜好を採り入れ献立を作成している。水分制限者には職員が1日の量を計り飲んでもらい、他の利用者は1500ccの摂取を目安にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に鉢植えがあり、壁には季節感のある手作りの作品を飾り、ソファなどで利用者がくつろげる空間を作り出している。ウッドデッキに続く出入り口があり利用者は自由に出入りしている。また、利用者は飼い犬と一緒にのんびりと寛いでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には仏壇や位牌、タンスなど、使い慣れたものを持ち込んだり、家族の写真を飾る等、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。		

※  は、重点項目。